

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム てらやま
(ユニット名)	2丁目
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市吉野町6581-2
記入者名 (管理者)	豊留 栄子
記入日	平成 20年 2月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	管理者は、ケース会議等で日々の介護や入所者の生活を支え実践できる様に話をしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	2ヶ月に1回運営推進会議を開いて地域の人々と交流する事で理解してもらおう様にしている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	町内会の行事をもう少し理解しできるだけ参加したり、催し物等の案内を配ったりしていきたいと思います。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の老人会等や自治会との交流が取れていないので増える様にして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を地区の民生委員等を交えて行う時に話し合いの場を持ち、管理者より高齢者(認知症)等につき分かりやすい形で伝わる様に努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全スタッフで行い、各人意義を考えて理解できる様にしている。又、自己評価結果を活かして質の向上につなげていける様に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で参加者からの意見を取り入れ色々な角度からのサービス向上を目指している。	○	会議の内容を細かく検討し、一つずつ実践していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2名生保の方がいるので、市役所とご本人の橋渡しをしている。又、その方の相談を行ったりしている。	○	今後も関わりを持ちながら相談等していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市役所からのパンフレット等は、スタッフへ説明し、閲覧させて分からない所は再び説明を行っている。	○	今後も、ケース会議等で話し合いの場を持ち、スタッフの質の向上に努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、日頃より管理者よりスタッフへ説明している。委員会を定期的に開催する事で、スタッフの認識も高めていく様にしている。	○	継続して勉強していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明書を一つ一つ説明し、分からない時はその時に聞いて頂く様に声をかけながら行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満等は各人スタッフが受けて、管理者やその日のリーダーに報告する様にしている。日頃より、スタッフより声かけを行って話しやすい雰囲気作りに努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告書を定期的に発送し、各人の状態変化や金銭管理についてはその都度、電話にて連絡、報告している。	○ 新年度よりスタッフによるホームだよりを発行、送付することになっているので、より多くの事柄をお届けできると思う。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情箱や相談・苦情の受付の手順について説明している。第3者委員会についても説明している。	○ 1階2階合同の意見箱を入口に設置し、何でも聞かせて頂ける様に説明している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃よりスタッフへの声かけ等を行い、職員会議やケース会議ではスタッフの意見をできるだけ多く聞く様にしている。	○ これからも職場の良い雰囲気作りに努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤・夜勤のローテーションにて対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフが各ユニットの利用者と馴染みの関係が作れる様に、挨拶や合同レクリエーション行い、スタッフの移動があった場合でも入所者が早く馴染める様に努めている。	○ 基本的に年1回の移動がある。(他入所者を知る上で行っている。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<input type="radio"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に管理者、ナースよりミーティングを行い、仕事への理解を深めている。常勤、パートを問わず、ケース会議、職員会議へ参加してもらっている。	<input type="radio"/> 他の研修を受けることができても認知症についての知識を深めていける様にしていきたい。
20	<input type="radio"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームでのもちつき等に参加したり、同業者の訪問見学も受け入れている。	<input type="radio"/> 管理者や職場が同業者と交流し、勉強する機会を設け、サービス質の向上に努めたい。
21	<input type="radio"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼食後、休憩時間を作りティータイムの時間にあてる様になっている。	
22	<input type="radio"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの経験や技術を生かして働ける様に各人のスタッフに応じた声かけや職務を与えて、各人がいきいき働ける様に心がけている。	<input type="radio"/> 今後、併設施設での研修、実務を実施していく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<input type="radio"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所者からの話を十分確認した上で、一緒に解決策を考える様に努めている。入所時は特に十分声かけや観察を行っている。	
24	<input type="radio"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約時又は契約前の訪問時に、不安や要望又今までの入所者との関わりを十分傾聴する事で、家族の努力を受け止める様にしている。	<input type="radio"/> 傾聴した上で、ここでの生活や施設の理念を十分に説明し、不安が軽減できる様に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学に見えた場合は、その方の現在の状態や家族の状態等を聞いた上で、適切にアドバイスできる様に努めている。(他サービスの紹介や介護保険についての説明等)	○	スタッフ全員が介護保険制度について、ある程度の知識が持てる様に努めていきたい。(勉強会開催や研修参加等)
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にはご本人との面談や施設見学等を行っている。1～2日の体験入所も行っており、ご本人に当ホームが合うかどうか宿泊してもらう事もできる様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフはレクリエーション等や日々の暮らしの中で、年上の方々から色々な事を学ぶ姿勢を忘れない様にしている。(料理の味付けを教えて頂いたり、一緒に作ったりしている。)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ一同、面会にこられる家族への声かけやその都度の状態説明を行ったりしている。又、家族への行事の案内を出し、参加していただいている。	○	よく来られる家族に片寄りがちなので電話連絡や手紙でのアプローチを行ない信頼関係を築いていく様に努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各人より話を傾聴し、ホームに入所された事で、お互いに良い関係、時間が過ごせる様にサポートしていきたい。(声かけ等)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方への電話や手紙の投函を希望があれば行っている。(家族了解にて)	○	馴染みの場所へなかなか各人をお連れできていない。しかし、定期的な外出やドライブで話を傾聴し、思い出を大切にできる様に努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方々の認知の度合いにより話しを分かりやすくしたり、入所者間に入り関わりがうまくいく様に努めている。又、座る場所を固定し、馴染みの関係を築きやすい様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所になった後もお見舞いに行ったり、家族の状態確認の電話をしたりしている。	○	年賀状等継続していきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で関わりを持ちながらその人の想いを聞いたり、態度や表情から汲み取れる様に努めている。日々声かけやコミュニケーションを取り、なるべく入所者と接する時間をもつ様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族、ご本人から今までの生活を聞いている。又、入所後も今までの暮らしを知る為に声かけやコミュニケーションをとっている。	○	入所時は、病院からであればサマリー、居宅からであれば情報提供表を頂いている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕申し送りを行い、各人の1日の生活について変化や大切な事はスタッフ全員把握できるようにしている。又、リーダーが申し送りノートに記入し皆の印を押すようにしている。(読んだ方は)	○	スタッフ一同継続的に入所者の生活をサポートできるように努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族からの意見やスタッフ間での話し合い等を反映しながらケアプランを作成する様にしている。	○	ご本人の意見確認の難しい方にはご家族にも話を聞き、反映する様にしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会時にご家族にも要望や意見を聞いたり、スタッフでもケース会議等で話しながら計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳へケアプランを基にその日の様子を記入している。その記録を参考にケアプラン等の見直しや見直しを考えている。排泄チェック、バイタルチェック、食事量チェックも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者のご家族の宿泊や食事の提供、入所者との外出により食事時間の変更等対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練や同系列施設での行事への参加にて、ボランティアの方とのふれあいを行っている。	○	個別に地域との関わりが少ないので必要に応じて対応していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリをご家族希望で行っている方がいる。	○	必要があれば他サービスを活用したりし、ご本人の生活の質向上に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	先日の運営推進会議で地域包括支援センターの方々とも話ができて、これからの協力体制を築いていける様に努めている。	○	お互い情報交換を行いながら協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時又は契約時にかかりつけ医の有無や要望を聞いている。当ホームの協力病院では、週1回往診して頂いているので、医者との関係も築きやすく状態変化あればすぐ報告し、対応していただける。	○	当協力病院以外のかかりつけ医の入所者の方にも、定期的に受診していただき採血や診察を受けていただき、結果を頂いている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院や往診ドクターへ連絡、報告を密にする事で、入所者の状態変化を見過ごさない様に心がけている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師との24時間医療連携体制をとっており、オンコールで対応できる様になっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にお見舞いに行き、ナースやドクターより状態を聞ける様にしている。年1回の定期健診を行うことでスタッフと病院との関係作りにも役立っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化になった場合の説明も行い、同意を得る様にしている。	○	ターミナルになった時のスタッフの対応やドクターとの連携のとり方についても今後勉強していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化やターミナルの方が現在までいらっしゃらないが今後を考えるとこれからスタッフの勉強会や準備を行っていきたい。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームからご本人とご家族に十分な説明を行い、相手先へのケアプランの提供や電話や面談での情報提供を行っている。	○	他入所者の方々も十分な説明を行い、動揺しない様に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目上の人に接する自覚をスタッフが持ち、きちんとした声かけ等の対応をしていく様に心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動前には、十分説明し、ご本人の意思を確認した上で始める様にしている。(選択の自由)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人のペースに合わせて生活して頂ける様に努めている。(入浴時間や外出希望等)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣の理容室の方に来て頂きカットして頂いている。各人に希望を取りご本人の意思を尊重している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや団子を丸めたり、各人の力をあわせて手伝って頂いている。片付けや台拭きも同様にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこはご本人と話をして量や時間を決めて差し上げている。又、ご家族が差し入れた物は、ホームで預りご本人の好きなときにお渡ししたり、こちらから差し上げたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、排便(下剤等)のみハビリパンツ着用や決まった時間にトイレへ座って頂き、排便はトイレでの習慣をつける様にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴日を決めているが、午前午後やその他入浴したい日には入って頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご家族へ電話してから入眠される方やテレビを見て入眠される方、各人に合わせて対応し、安心して入眠して頂ける様に努めている。日中の活動量も確保する様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力を合わせて、声かけする場面を変えて対応し、“行う”事によって楽しみや役割を持って頂いている。(野菜切り、洗濯物たたみ、干し、掃除等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でいくらかお金を持ち、買物にて支払いをされる方もいる。お金を預っており買物時にスタッフが入所者へ渡し、支払いをされたりもしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気によってドライブや散歩等に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力が得られる方は、自宅へ帰ってみたい、墓参りされたりしている。	○	ご本人の要望とご家族の考えが、体力的に合わない方々もご家族の協力等にて実現できる様に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置してあり、いつでも電話できる様にしている。又、手紙等も代理で投函したりしている。(ご家族の了解のもと)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会できる様にしており、スタッフから声かけを行い、良い雰囲気作りに努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しない。というスタッフの統一した考えを持ち、日頃より考えながらケアに努めている。市からパンフレットや文章を周知し、理解とケアの向上に努めている。	○	身体拘束委員会を作り、スタッフ間で話し合い全員へ周知する事で意識を高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為、部屋の鍵はかけているが、昼間は特にかけておらず、見守りにて解決している。(入口は2ステップセンサーになっている。)	○	ご家族には、入所時説明し理解をしてもらっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入所者の居場所を把握できる様に記録等もフロアで行っている。料理しながら対応できる様にオープンキッチンになっている。夜勤者も見守りや見回りも定期的に行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各人の状態により、対応している。ハサミ等を貸す場合は見守りを行い、使用後はすみやかに返して頂いている。(鍵をかけている場所4箇所)	○	ご本人でハサミや爪切り等管理されている方もいるが、見守り等行いながらこれからも危険防止に取り組んでいく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急マニュアルを作成し、皆が閲覧できる様に書棚に常に置いてある。又、消防訓練を行ったり、非常階段の鍵の確認や消火器の確認を日頃より行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアル作成しており、日常的に閲覧できる様にしている。	○	救急対応や手当での訓練を行っていく様に努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は行っているが、地域の方々への声かけ等は不十分である。(年2回)	○	先日の運営推進会議で町内会と当ホームとの協力体制を確認したのでこれから活用していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化が起こった時はご家族、ドクターの連携をはかり、すばやい対応を取る様にしている。ご家族への報告が遅れない様に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックにて状態観察を行い、その他顔色や食欲等によってナースや管理者への報告。又、ドクターへの連携を行っている。(報告、病院受診等)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者の服薬している内服のファイルを使っており、いつでも見て確認できる様になっている。(どの様な内服で、いつ飲んでいる等記入している)	○	服用変更があれば、申し送り帳に記入し、申し送る形をとっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や毎朝の牛乳提供や果物の提供を行っている。又、便秘の方の腹部マッサージや散歩も適宜行っている。(排便チェック)		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔介助や声かけを行い、清潔に保てる様に心がけている。往診歯科との連携を行い、異常がある時は早めの往診を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は同系列の施設の管理栄養士がたてた物を使用している。水分チェックは1ヶ月に1回は行う様にしており、日々も上手に水分が取れる様にヤクルトや野菜ジュース等を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、いつでも読める様にしており。手洗いうがいやスタッフと入所者の手拭きタオルは共用しない等日々より気をつけている(毎日手すり、イス等はアルコール消毒をしている。)	○	インフルエンザは全職員・入所者(希望者)に接種している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキンやまな板等は1日1回以上はハイター消毒している。又、食材も新鮮な物を購入し、早い時期に使用する様にしており。生ものはあまり出さない様にしており。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の飾り物を行う様にし、見て楽しめたり、会話が弾む様に考えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにも入所者の皆さんと作った物を飾り、生活観を出す様にしており。又、山の中なので鳥のさえずりや桜島の景色に心穏やかに過ごしていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには個人のイス、ソファがあり、いつでも自由に座れる様になっている。又、ベランダにはベンチがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご本人の馴染みの者を持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は必ず全室換気を行っている。又、温度調整も適宜行い、適温になる様に努めている。(冷房28度・暖房25度以下に設定する)	○	温度計や湿度計の設置を行い、常に快適な状態で過ごして頂ける様にしたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーであり、廊下、トイレ、風呂場、には手すりが取り付けられてあり、安全に移動できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日同じ食卓のイス(場所)を準備している。トイレへの目印や各部屋をカーテンを違えてご自分の部屋が分かりやすい様にしている。(壁紙も変えている。)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにベンチをおいて自由に座れる様になっていたり、洗濯物を干せる様にしている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームの理念を基に、日々の生活の質の向上を目指し、ケース会議や外部への研修を取り入れる事でスタッフのケアの質の向上を目指して、日々努力していきたい。